



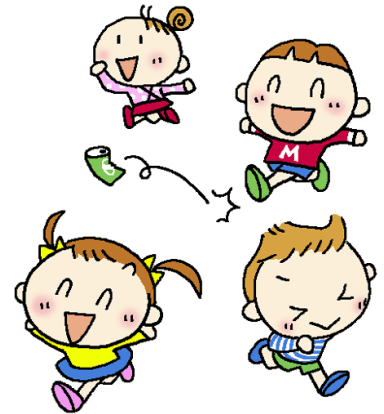
2024.10.18

瀬戸ひなご幼稚園園長 神戸洋美

### 自分らしく生きるとは？

「多様性」と聞いたときに感じるイメージとして、一般的にジェンダーや国籍、障がいのある人、LGBTQなどのマイノリティを想像しがちですが、「多様性を受け入れる」とは本来どういう意味なのでしょう？9月まで放映されていたNHKの連続テレビ小説『虎に翼』は、本来は初の女性裁判官誕生の物語でしたが、ジェンダー等を取り上げた内容でもありました。「多様性」に関する人たちが登場してきて、昭和の時代に「とんでもない」と表に出せなかったことが昔から存在していたこと、現代と相通する点が多々取り上げられており、色々と問題提議された朝ドラでした。

東洋大学の南野奈津子教授によると「多様性とは、マジョリティ(多数派)がマイノリティ(少数派)を受け入れる、ということではなく、自分も人と違うところがあり、誰もが他者から受け入れられる側でもあるわけです。そういった状態が成立するのが共生社会であって、多様性を受け入れるということだと考えています。」と述べられました。さらに「人間の幸せの大前提が『自分らしく生きる』ということ。障がいのある人や高齢者といった属性の話以前に、社会の中でみんな“違い”があるのが当たり前です。まずは、多様性を尊重する、受け入れるということをみんなが意識することで、誰もが生まれてから死ぬまでを、人として幸福に自分らしく生きることができるのではないのでしょうか。」とおっしゃっています。



実は私自身も昭和生まれなので、ここ最近急に上げられるようになった「多様性」という言葉に戸惑っていました。でも南野教授の言葉を見つけた時、その迷いが少し晴れたような気がしたのです。現実として幼稚園も多様性社会です。国籍や障害に関わらず、どの子ども認め受け入れるという教育現場でありたいと考えています。ただし毎日の生活の中で、子ども同士のコミュニケーションを考えると、対応が難しい場面もあり、我々教師が間に入ってトラブルが起きないように努力しています。お子さんの個性は一人ひとり違います。そのお子さんにとってどの状況がベストであるのか、保護者様と相談しながら「自分らしく生きる」を目標に、子どもたちの成長を見守っていきたくと思います。

### 待ってた待ってた運動会

秋の重要な行事である作品展が終わり、次に重要な運動会の練習が始まっています。子どもたちは動く、走ることが大好きなので、お天気の良い日は運動場で活発に動いています。運動場にトラックの線を引きました。戸外遊びに出てくると、すぐにかっこいい競争が始まります。いつ終わるともなく延々と子どもたちは走っていて「疲れを知らない子どものように・・・」と昔の歌にもあるように、そのパワーはどこから湧き上がってくるのか、というくらい続きます。

もちろん運動が得意な子もそうでない子もいるので、運動会を複雑な気持ちで待っているお子さんもみえるかもしれません。逆に動くことが得意なお子さんにしてみれば、運動会が待ち遠しくて仕方がないと思います。一人ひとり、個性も能力も得意分野も違いますが、その子なりの良さを認めて伸ばしてあげることが大切です。運動が苦手なお子さんでも目標をもって努力することで、思わぬ好成績が得られること



があるかもしれません。誰にでもその可能性はあります。さらに音楽に合わせてのリズムダンスやバルーンを使っての演技もあります。音楽に合わせてどのような衣装にするか先生たちも悩みます。色やキラキラ等、子どもたちの動きを最大限に活かす衣装も楽しみにお待ちくださいね。

「♪待ってた、待ってた運動会♪」の歌にあるように、どの子ども喜んで運動会を心待ちにし、楽しく参加してくれるように、そして全ての保護者様が、瀬戸ひなごの子どもたちを同じ家族だと思って応援していただき、運動会を盛り上げてくださることを願っています。